

# ビルヴァーシュタカム

## 第1節

(ビルヴァの木の葉には)小葉が3枚ある。

それらは存在の三つの性質、  
そして、シヴァの三つの目と三つの武器を表している。  
シヴァへの1枚のビルヴァの葉のささげ物は  
3度の生涯の罪を打ち砕く。

## 第2節

私は1枚のビルヴァの葉——美しく、柔らかく、完全に  
三つの葉柄を持つ葉——のささげ物でシヴァを崇拝する。

## 第3節

完全なビルヴァの葉で、シヴァ、ナンディ(神聖な雄牛)の主を崇拝する人々は、  
すべての罪が浄化される。  
それゆえに、1枚のビルヴァの葉をシヴァにささげなさい。

## 第4節

シヴァへの1枚のビルヴァの葉のささげ物は  
ソーマのささげ物の儀式の偉大な功德を与える。  
それではなぜ、功德を得るために  
ブラーミンの司祭たちに貴重なシャーリグラームの石をささげるのか。

## 第5節

シヴァへの1枚のビルヴァの葉のささげ物は  
数百万頭のゾウをささげることに等しく、  
100回のヴァーージャペーヤの儀式  
(王たちによるささげ物の儀式)に等しく、  
1000万人の娘を嫁に出すことに等しい。

## 第6節

ビルヴァの木はラクシュミーの身体から生まれ、  
シヴァに愛される。  
それゆえに、1枚のビルヴァの葉をシヴァにささげなさい。

## 第7節

ビルヴァの木を見たり触れたりすることは  
最も恐ろしい罪を打ち砕く。  
それゆえに、1枚のビルヴァの葉をシヴァにささげなさい。

## 第8節

(ビルヴァの木は)根としてブラフマーの形を取り、  
幹としてヴィシュヌ、そして最上部としてシヴァの形を取る。  
それゆえに、1枚のビルヴァの葉をシヴァにささげなさい。

## 第9節

ビルヴァの葉についてのこれらの8節を読むことの成果は  
シヴァと親しくなり、シヴァの住まいに到達し、  
そしてすべての罪から解放されることである。

翻訳 © SYDA Foundation®. 著作権所有。

[音声録音]

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのミュージックアンサンブルによる朗唱。

©©2011 SYDA Foundation®. 著作権所有。

複写、録音、配布することを禁ず。

## シヴァ神の住まいに入る

### エリザベス・グリムバーゲン

シヴァ神の崇拝はヴェーダの時代にまでさかのぼります。実際、考古学者によって発掘された最も古いシヴァ・リングムは紀元前3世紀と推定されます。リングムは、始まりも終わりもない宇宙の火柱、スタンバを表しており、シヴァ神はそこから現れたと信じられています。すべてのものが現れ、すべてのものが戻る、形のない無限の源を表すものと見なされ、リングムの長球の形は地上の者と神聖なる者を結び付けます。またしばしば、私たちが知っているように、常に宇宙を創造しているシヴァ神と女神シャクティ(またはパールヴァティー)の結合の無限の創造的エネルギーを表しているとも理解されています。

シヴァ神は破壊の最高に力強い力として描かれている一方、その慈悲心でも知られています。『シヴァ・プラーナ』では、シヴァ神を喜ばせる崇拝の方法が述べられています。これらの中で

基本的なものは、アビシェーク、すなわち「儀式的な沐浴(もくよく)」と、ビルヴァの葉をリングムの姿のシヴァ神にささげることです。

ビルヴァの木はインドが原産で、ヒマラヤ山脈の斜面に生育が認められています。何世紀もの間、この木の葉と茎と実は、その薬効のために大切にされてきました。それはまた、シヴァ神に対して神聖なものと言われています。実際、『シヴァ・プラーナ』では、ビルヴァの葉はシヴァ神自身の顕現そのものであるとされています。他のプラーナでは、その木はシヴァ神の配偶者、女神パールヴァティーの汗の滴からできたとされています。さらに他の物語には、上記の賛歌「ビルヴァーシュタカム」のように、この木は女神ラクシュミーの体から生まれたと描かれています。

「ビルヴァーシュタカム」は、シヴァ神への1枚のビルヴァの葉のささげ物が描かれた八つの詩節で、尊敬されるアーディ・シャンカラチャーリヤによって書かれました。そして神にこの単純なささげ物がなされる時によく歌われます。ビルヴァの木は神聖なる者の住まいと考えられるだけでなく、その三つ葉の形も神聖な象徴と共鳴します。この賛歌の第1節では、この葉の形は、存在の基本的な資質である三つのグナ(サットワ、ラジャス、タマス)、シヴァ神の三つの目、彼の武器である三つまたの矛の3本の突起を表していると語っています。最後の説明的な節ではこの3の象徴が強められ、ビルヴァの葉それ自体が創造、維持、破壊(ブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァ)を表す神性の三つの側面を含んでいると述べています。

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダが、この賛歌のこのバージョンのメロディーを作曲しました。そしてシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのミュージックアンサンブルによって歌われています。ダルバーリー・カーナダー・ラーガで作曲されたこのメロディーは、深い静けさとシヴァ神への献身の感情を呼び起こします。

この世のすべての宝を考えるにつけ、最もシヴァ神を喜ばせるのは単なる葉だということは驚きです。その葉は神の無限の寛大さを呼び起こすほどに吉兆で、とても神聖なのです。神の慈悲深さは、毎年マハーシヴァラトウリーのお祝いの間、インド中やシッダ・ヨーガの道で語られている獵師とシカの物語にとっても分かりやすく示されています。『シヴァ・プラーナ』のこの物語の中で獵師は、「偉大なシヴァの夜」にそうとは知らずにビルヴァの木に隠れて獲物を待っていました。木の根元にシヴァ・リングムがあり、その上の枝には獵師の水筒がありました。一晩中、獵師が体重を移動させるたびに、ビルヴァの葉と水滴がシヴァ・リングムの上に落ちました。獵師は自分自身の行為に気づかないままシヴァ神を崇拜しているのです。夜が更けるにつれ、獵師の意図せぬ礼拝も続きます。朝までには、彼の心は慈悲で満たされ、もはや獲物を渴望することはありませんでした。

私はこの話が大好きです。そしてその意味を熟考するのが大好きです。獵師が自分の行為に気づいていなくても、シヴァ神は彼の無限の慈悲で獵師の心を浄化するということが、私はいつも心を打たれます。私にとってそれは、神はいつも存在し、たとえ私たちが気づいていなくても、常に私たちの心の状態に気づいているということを意味します。これは私にとって、とても心が慰められる考えです。

アーディ・シャンカラーチャーリヤは、それを歌う者はシヴァの住まいに連れて行かれるであろうと言って、彼の賛歌を結んでいます。シヴァの住まいとは何でしょうか。シヴァ・リングムは私たちに示唆を与えています。シヴァの住まいは形がなく、あらゆるものの無限の源で、すべてのものがそこから現れ、すべてのものがそこへと戻る境地です。

かつて私は、インドのガネーシュプリーのシッダ・ヨーガのアーシュラム、グルデーヴ・シッダ・ピートゥでかなりの時間を過ごす機会がありました。毎夕セーヴァーの後、私はアーシュラムの上方の庭にあるシヴァ・テンプルに引き寄せられました。この白い大理石の寺院には、漆黒の大理石のシヴァ・リングムがあります。プラナムを行い、花をささげた後、私はよく隅に座り、

シヴァ・リンガムを見詰めたものでした。それは全く魔法のような時間でした。私のマインドは完全に静かになり、時間を超越した陶酔させるような平安に包まれました。そうして、私はシヴァの住まいに入ったと感じました。

シッダ・ヨーガの道では、私たちはシヴァ神を、私たち一人一人の内側に宿り、そして全宇宙に浸透する至高なる意識として崇拝します。「ビルヴァーシュタカム」を朗唱してシヴァ神を崇拝する時、私たちは至高なる意識と一つであると——そして私たち自身の大いなる心はシヴァ神の住まいであると体験することができるのです。

